

# 社会福祉施設における 感染症対策と介護ケア

福井県看護協会  
感染管理地域支援委員会  
感染管理認定看護師

# 施設内で利用者のコロナ陽性!!



# 施設でやらないといけないこと

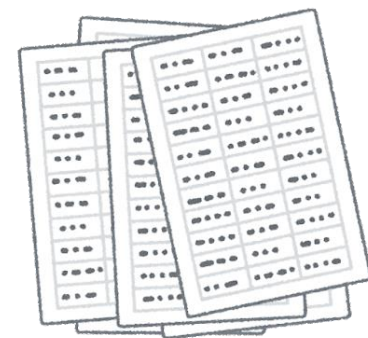
## 感染対策組織

- 対策本部の立ち上げ
- 保健所とのやりとり
- 利用者とその家族、職員、地域住民等への情報発信
- 感染対策の担当者決め



## 感染状況の把握

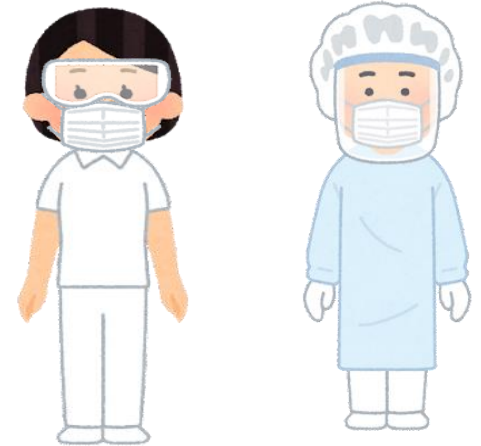
- 利用者、職員の体調確認、陽性者とのかかわりを確認
- 接触者の一覧作成
- 検査実施（保健所の指示など確認）



# 施設でやらないといけないこと

## 感染拡大防止対策

- ゾーニング、動線の確保
- 標準予防策と感染経路別予防策の教育と徹底
- 個人防護具の着脱の場所決め、方法の掲示、教育
- 高頻度接触表面の清拭消毒の実施
- 医療廃棄物の処理
- 新規入所や通所利用の中止



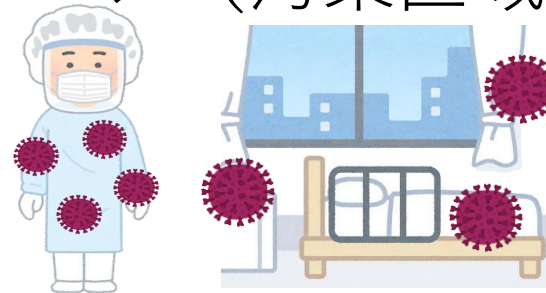
などなど・・・

# 実際の現場では・・・

- 発熱者はまとめられている  
→ コロナ陽性と陰性の患者が混ざっている



- みんな个人防护具を装着しているが、交換せず利用者に接している  
→ 自分たちが媒介している可能性がある  
→ どこもかしこもレッドゾーン（汚染区域）に

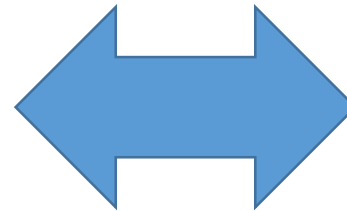
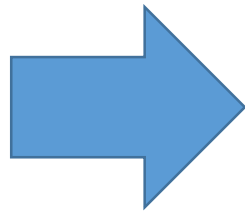


- スタッフは足りないけど、通常業務続行  
→ スタッフがどんどん疲弊していく



# 施設における感染対策の心得


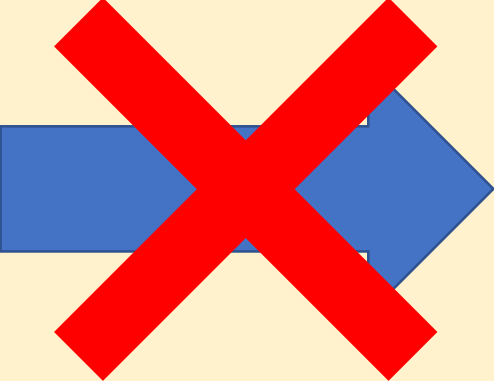

自分が  
感染しない



入所者に  
うつさない

入所者間で  
媒介しない  
(拡げない)

# 感染の成立に必要な 3 要素

感染源	感染経路	感染を受けやすい人
 <p>病原体の存在・量・病原性 (病気を起こす力)</p>	 <p>病原体が人に移行し、感染する道すじ</p>	 <p>免疫のない人 抵抗力の低下した人</p>

感染経路を遮断することが感染予防に重要。

# 感染対策はいつ・誰に行うか



検査で感染症と  
診断された人

- 症状があるのに検査をしていない人
- 感染していても症状がない人
- 未知の感染症

感染対策は日常から、全ての人に対して行う。



# 標準予防策とは

感染症の有無に関わらず、以下の4つは感染性のある病原体を含んでいると考えて対応する。

血液	汗を除くすべての体液、分泌物、排泄物
損傷のある皮膚	粘膜

素手で触れない。

汚染の可能性がある場合は適切に防護する。

# いつ个人防护具を使用するか

血液・体液・分泌物・排泄物など

手に触れる  
可能性のある場合

手袋



衣服に飛び散る  
可能性のある場合



眼に飛び散る  
可能性のある場合

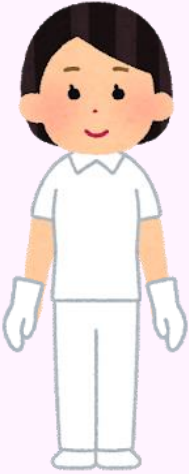






口・鼻に飛び散る  
可能性のある場合

サージカルマスク



# 処置別 個人防護具着用（例）

手袋	マスク	手袋 エプロン	手袋 エプロン マスク	手袋 エプロン マスク 眼の防護具
 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 膀胱留置 カテ挿入時</li></ul>	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ インフルエンザ流行期</li><li>・ 呼吸器症状のある者のケア</li></ul>	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ オムツ交換</li><li>・ 胃瘻洗浄</li></ul>	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 嘔吐物処理</li><li>・ リネン交換</li></ul>	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 喀痰吸引</li><li>・ 口腔内のブラッシング</li></ul>

# 個人防護具 着衣の順番



1  
消毒



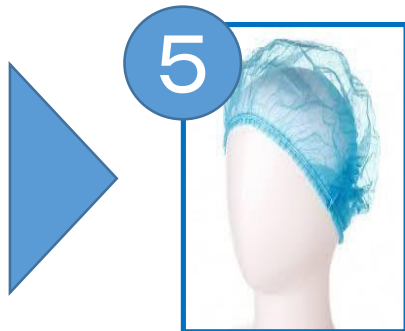
2  
ガウン



3  
マスク



4  
ゴーグル



5  
キャップ



6  
フェイスシールド



7  
消毒



8  
手袋

※ゴーグルもしくはフェイスシールドを使用

# 個人防護具 脱衣の順番



手袋



消毒



フェイス  
シールド



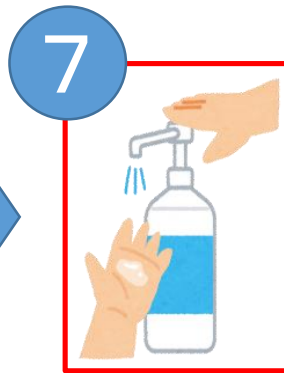
キャップ



ゴーグル



ガウン



消毒



マスク



消毒

# 個人防護具の着脱に関する資料紹介

- 令和3年度院内感染対策講習会

「新型コロナウイルス感染症に関する特別講習会」

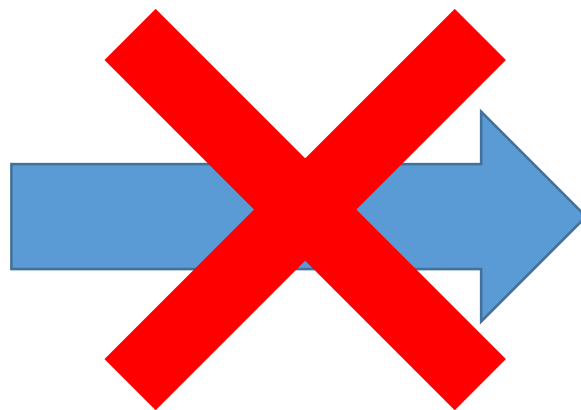
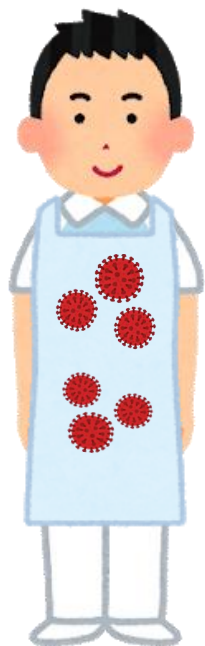
3. COVID-19の感染対策の動画

- 福井県看護協会の個人防護具の着脱の動画

ほかにもあります。

# 手袋・エプロンは使い捨て

- 手袋やエプロンを着用したまま、他の入所者のケアにうつる、環境表面に触れる、別室に移動するなどしていないか？
- オムツ交換時に布エプロンを使用していないか？

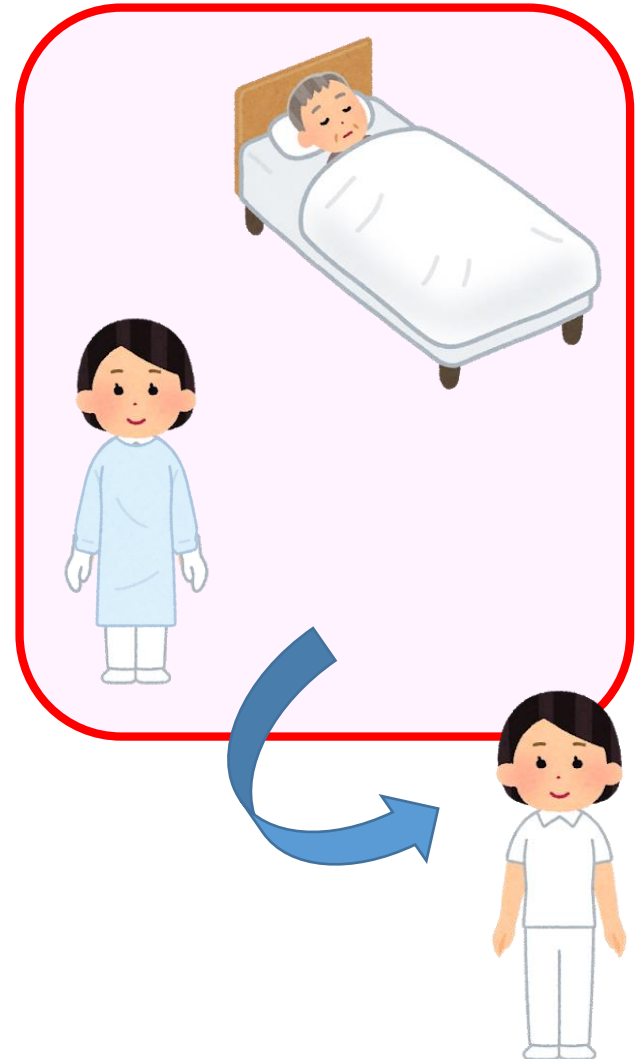


# 個人防護具は不要になったら脱ぐ

個人防護具は病室または定位  
置で脱ぎ、廃棄する。

## マスクや眼の防護具が不足の場合

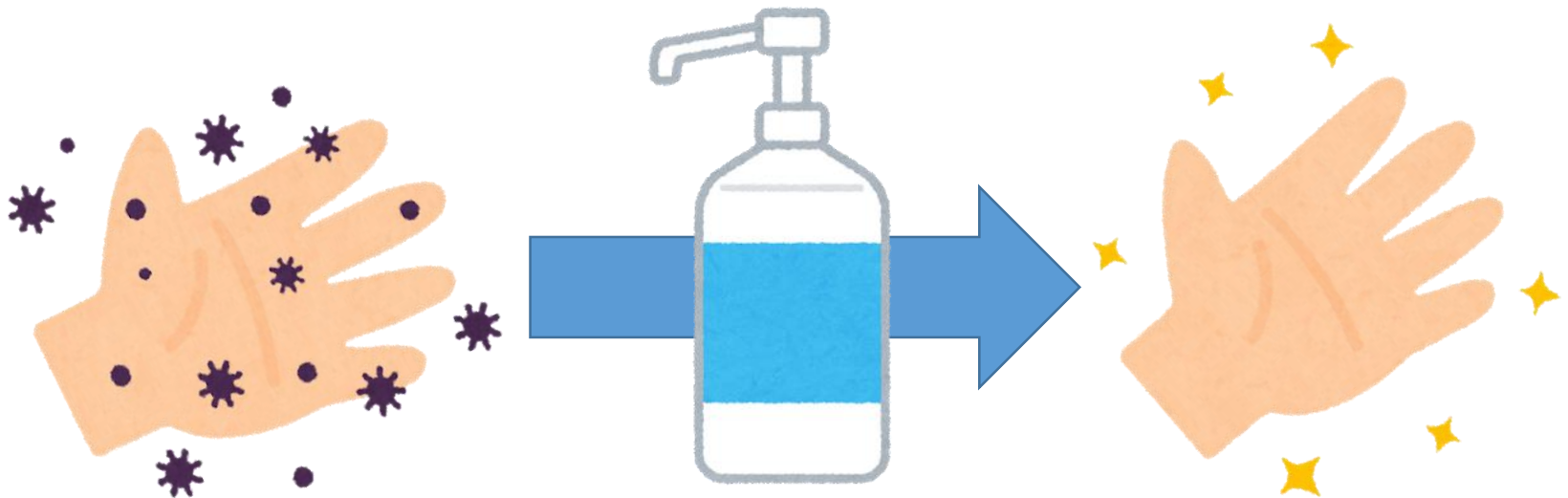
- 連続して複数人をケアする場合、マスク、  
眼の防護具は交換せずに使用。
- 眼の防護具を再利用する場合、使用後  
（外した後）に洗浄や消毒を行う。
- 表面は汚染しているものとして取り扱う。





# 手袋をつけていても 手指衛生は必要か？

- 手袋には目に見えない穴があいている可能性がある。
- 手袋を外す際に手首などを汚染する可能性がある。



# なぜ手指衛生が重要か

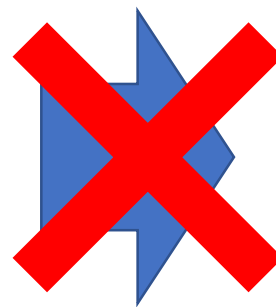
## 接触する

直接・間接的に病原体に汚染されたものに触れる。



## 付着する

正常な皮膚に付着しただけでは感染しない。



## 侵入する

汚染された手で眼・口・鼻を触ると、粘膜から体内に侵入する。



## 媒介する

汚染された手で直接・間接的に病原体の汚染を拡げる。



# 手指衛生を行う5つのタイミング

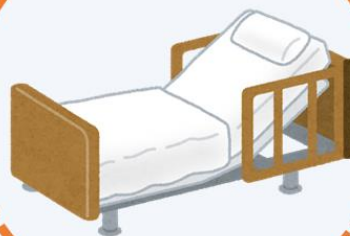
2 清潔・無菌  
操作の前

1 入所者に  
触れる前



4 入所者に  
触れた後

3 体液に触れた  
(可能性のある)  
手袋を脱いだ後



5 入所者周辺の  
物品に触れた後

# 微生物の環境生存期間

菌種	生存期間
黄色ブドウ球菌 (MRSA含む)	7日～7か月
ノロウイルス	8時間～2週間以上
B型肝炎ウイルス	7日以上
緑膿菌	6時間～16か月

# 新型コロナウイルスの環境生存期間

素材	生存期間
プラスチック表面	2～3日
ステンレス表面	2～3日
段ボール表面	24時間
銅(10円玉)の表面	4時間

# 手指衛生の方法と特徴

## 方法

## 特徴

### 手指消毒



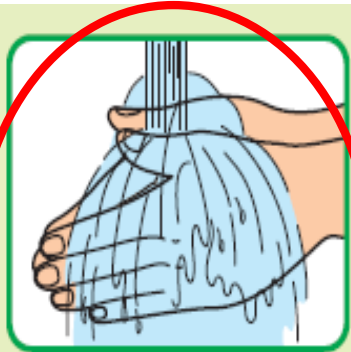
- 目に見える汚れがない場合に行う。
- 手指に付着したウイルスを消毒効果で殺滅する。
- 手指消毒剤の選択が重要。

### 石鹸手洗い



- 目に見える汚れがある場合、トイレ後、食事前に行う。
- 手指に付着したウイルスを物理的に減少させる。

# 石けんと流水による手洗い



① まず手指を流水でぬらす



② 石けん液を適量手の平に受け取る



③ 手の平と手の平を擦り合わせよく泡立てる



④ 手の甲をもう片方の手の平でもみ洗う(両手)



⑤ 指を組んで両手の指の間をもみ洗う



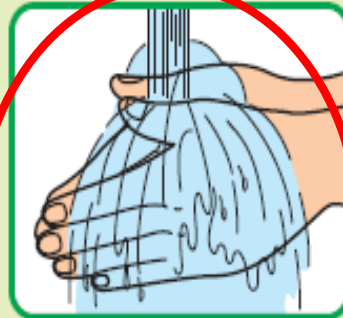
⑥ 親指をもう片方の手で包みもみ洗う(両手)



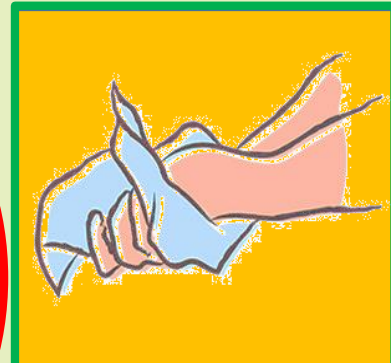
⑦ 指先をもう片方の手の平でもみ洗う(両手)



⑧ 両手首までていねいにもみ洗う



⑨ 流水でよくすすぐ



⑩ ペーパータオルでやさしく水分をふき取る

30～60秒かけて行いましょう!

# オムツ交換後

前



後



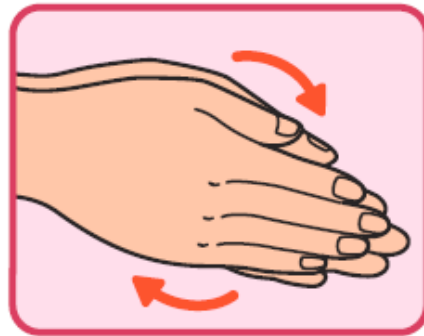
オムツ交換後の手でも、手洗いを十分行えば菌がほとんどなくなっている。



# アルコール製剤による手指衛生



1 ジェル状の速乾性手指消毒剤を適量手の平に受け取る



2 手の平と手の平を擦り合わせる



3 指先、指の背をもう片方の手の平で擦る (両手)



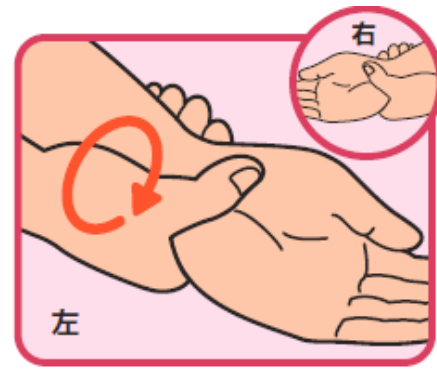
4 手の甲をもう片方の手の平で擦る (両手)



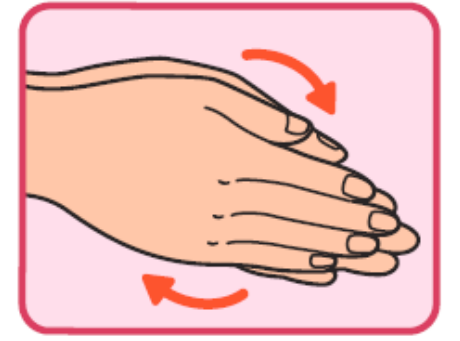
5 指を組んで両手の指の間を擦る



6 親指をもう片方の手で包みねじり擦る (両手)



7 両手首までていねいに擦る



8 乾くまで擦り込む

15秒以上かけて行いましょう



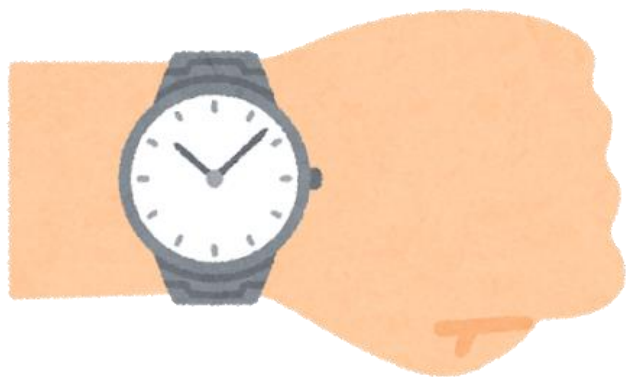
# 消毒剤について

様々な施設で環境対策や手指消毒として消毒剤を使用するが、消毒薬は使用する目的にあった製品を選択し、正しく使用し、保管することが重要である。

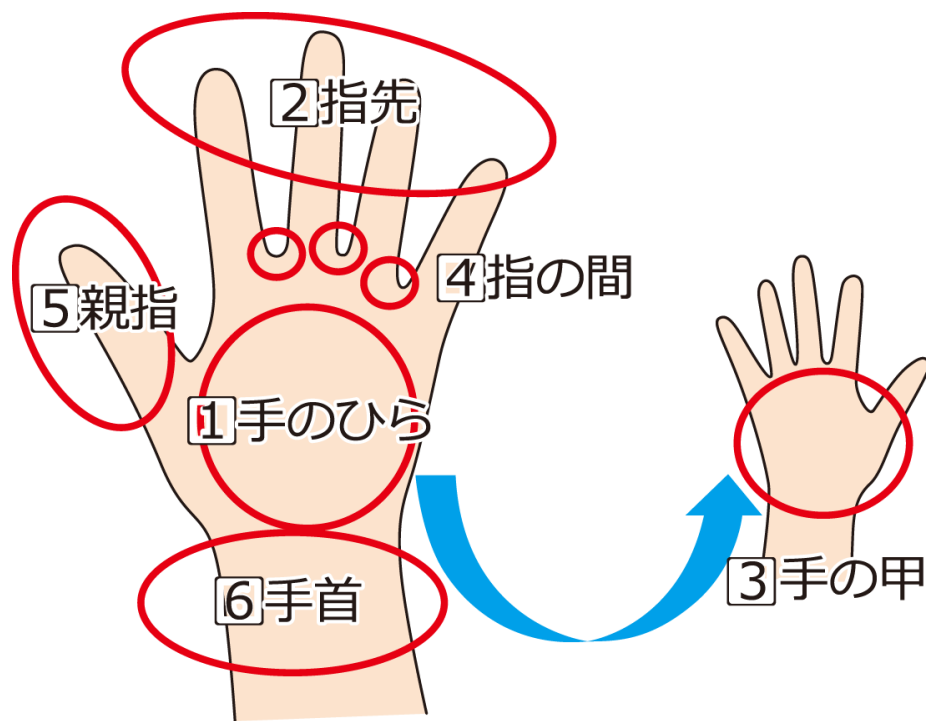
表 新型コロナウイルス感染症で使用する消毒薬の例

	手指の消毒	環境（モノ）の消毒
使用する消毒薬	消毒用エタノール	① 熱水 ② 次亜塩素酸ナトリウム ③ 界面活性剤（洗剤）
濃度	70～80%が最適 (70%以上のものが入手困難なら60%台でもOK)	① 80度10分浸漬 ② 0.05%に希釈して使用 ③ N I T E 検証試験結果で有効と判断された界面活性剤（9種）
保管	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 開封日を記載する</li><li>・ 熱や直射日光を避ける</li></ul>	

# 手洗い時の注意



時計や指輪を除去する。  
ケア時は着けない。



洗い残しが無いよう、  
意識して洗う。


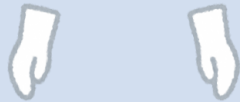

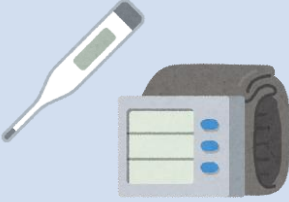
# 経路別予防策とは

標準予防策だけでは病原体の伝播を遮断できない場合に、標準予防策と併用して行う対策。





# 接触予防策とは

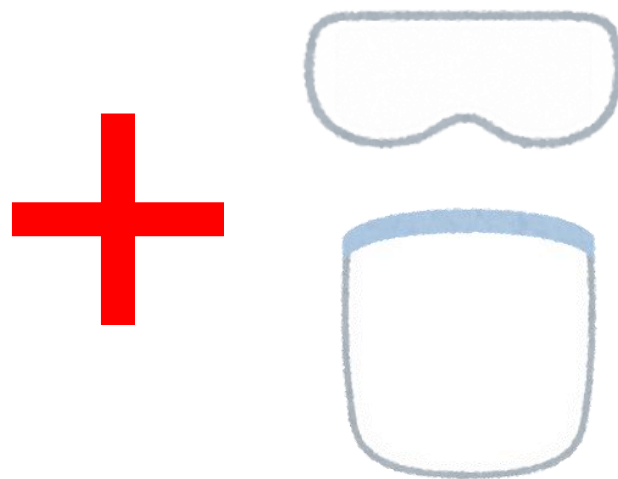
患者や患者環境との直接/間接接触により、病原体が伝播するのを予防するために、手袋やガウンを着用する。

	個室	手袋	ガウン	器具・器材
対策				
説明	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 同じ病原体患者の同室は可。</li><li>・ 症状の重いは個室を優先。</li><li>・ 患者間は1M以上あける。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者、周辺環境に触れる場合は常に手袋を装着する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者、周辺環境に衣服が直接接触れる場合はガウンを装着する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 器具は患者専用とする。</li><li>・ 共用の場合は消毒する。</li></ul>

# 飛沫予防策とは

飛沫による感染を防ぐため、マスクをつけたり、距離を保ちカーテンなどで物理的に隔離する。

	個室	マスク
対策		
説明	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 接触予防策と同様。ただし、患者間はカーテンなどで隔離することが重要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 部屋に入る者はマスクを着用する。</li><li>・ 患者が居室から出る場合はマスクを着用する。</li></ul>



# 個人防護具の装着状況と 感染リスク

日本環境感染学会  
医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド  
(第3版)

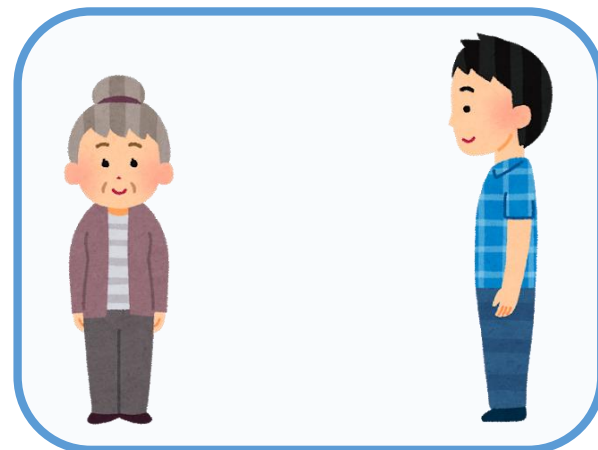
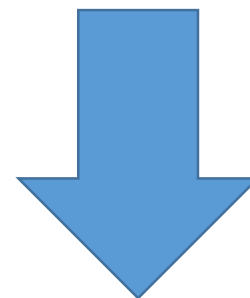
		新型コロナウイルス感染症患者	
		マスクなし	マスクあり
介護者	マスクなし	高リスク	中リスク
	マスクあり 眼の防護なし	中リスク	低リスク
	マスクあり 眼の防護具あり ガウンor手袋なし	低リスク	低リスク
		※広範な身体接触の場合は中リスク	
	すべて着用	低リスク	低リスク

# ケアの際の注意点

個人防護具を装着していても、  
以下の際に注意が必要。

- 距離が近ければ近いほど
- 対面（顔を見合わせて）の会話
- 飛沫が飛ぶ処置を行う
- 換気が悪い環境 など

自分の安全も確保できるよう  
意識して行動する。





# おむつなどゴミの取り扱い

- 使用済みのおむつやティッシュは、感染性のあるごみとして取り扱いは特に注意が必要。
- 使用済みおむつはすぐに袋に入れるようにする。

ついつい、こういうことをしていませんか？



汚染した  
オムツを  
床に直置き  
している。



汚染した  
オムツを  
そのまま  
持ち出し  
ている。

周囲を汚染させないように持ち出しましょう！



☑オムツはビニール袋に入れる。  
☑汚染した手袋やエプロンも脱いで  
ビニール袋の封をして持ち出す。  
☑運ぶときはビニール袋を体から離  
して持つ。

# 使用済みのものを 持ち出す際の注意点

使用済みのもの(リネン、食器、物品、ごみなど)を持ち出し搬送する際、複数の人の手を介する場合。



- 複数の人の手が汚染。
- 手を介した環境汚染の範囲が広がる。



- 使い捨てる。
- 外側を汚染しないように袋に密閉する。
- 消毒して持ち出す。 など

# 休憩中、終業時の注意点

- 食事中や居場所の切り替わり(休憩室、更衣室など)の際に、マスクなしでの会話はしない。
- ユニフォームは毎日交換する。
- 始業時・終業時に手洗い、または手指消毒をする。
- 終業後はまっすぐ帰宅する。
- 毎日の終業後、帰宅後にシャワー・入浴をする。

# まとめ

- 自分が感染しない、入所者にうつさない、入所者間で媒介しない。
- 標準予防策として日常から適切な手指衛生、個人防護具の使用を行う。
- 標準予防策に加えて経路別予防策を行い、感染経路を遮断する。

**日頃からの感染対策が重要です！**